

よしかわICT教育通信

発行：R4.5 吉川市教育委員会 ☎984-3564（学校教育課） Vol. 10

ICTとは、Information and Communication Technology、つまり「情報通信技術」を意味します。
ICT教育は、教育現場で活用される情報通信技術そのものや、取り組みの総称です。

学びを深める・本質に迫る“ステップ2”へ

「教育のICT元年」と言われた昨年度は、まずタブレット端末の操作に慣れること（ステップ0）からスタートしました。タブレット端末を使用する機会が次第に増え、後期には多くの学校が、様々な授業の中でICTを利活用するステップ1レベルに到達できました。

今年度は子供たちがICT機器を文房具と同じ「学びの一つの道具」として使いこなせるよう取組を進め、「教科の学びを深める」「教科の学びの本質に迫る」（ステップ2）を目標に、授業や家庭学習の質・効果が高まるICTの使い方を研究、実践していきます。

「1人1台端末・高速通信環境」を活かした学びの変容イメージ
（吉川市学校教育情報化推進計画 第3版より）

ステップ3

教科の学びをつなぐ。
社会課題等の解決や
一人一人の夢の実現に活かす。

ステップ2

教科の学びを深める。
教科の学びの本質に迫る。

ステップ1

“すぐにでも”“どの教科でも”
“誰でも”活かせる1人1台端末

ステップ0 “使うこと”が習慣化する環境づくり

従来の「情報モラル教育」の発展型

デジタル・シティズンシップについて学んでいきます

従来の情報モラル教育はネット依存症やSNSの影響等を題材にICTの危険性を訴え、利用を抑制する傾向がありました。

しかし、今やデジタル社会の進展に伴い、ICTに関わることは避けて通れません。様々なリスクはありますが、「使ってはいけない」から「どう使えばよいか」への意識の転換を求められています。そこで注目されているのが「デジタル・シティズンシップ教育」です。（詳細は次ページ）



教職員研修の様子

主体的に考える講座の開催

今年度はデジタル・シティズンシップについて、小学校低学年から中学校まで発達段階に応じて6つのテーマを設定し、講座を実施します。

テーマごとに自分の考えをまとめ、共有し合い、ICTの使い方等を自分で決定します。教員や児童生徒の受講は必須とし、保護者の方々も聞くことができる機会を作っていきます。

■ テーマ ■

1. インターネットの特性・仕組みを学ぶ
2. インターネットの投稿を考える
3. インターネット上の悪口・いじめを考える
4. インターネット上のウソやだましにのらない
5. ネットのマナー・プライバシー・権利を守る
6. メディア・リテラシーを高める

ICT 術

いつも ちゃんと つかおう

じゅつ



第 10 回 デジタル・シティズン シップ教育って何？



にわかに登場した「デジタル・シティズンシップ」って言葉。
それって「いったい何？」って思われている方々も多いかと思うので、
今回はできるだけ易しく説明します。

GIGA スク
ール構想は
デジタル社
会で活躍で
きる力を育
成すること
を目的とし
ています。



まず言葉から。
「デジタル」こ
こでは、スマ
ホ、コンピュ
ータをはじめと
した情報機器を使
う社会というイ
メージ。デジタ
ル社会とも言わ
れており、それ
を推進するため
に国ではデジタ
ル庁も新設した
ことは記憶に新
しいでしょう。

「シティズンシップ」とは、英語の「市民権」のこと。
市民としての身分・立場で、それを持つすべての人はみんな平等。そ
の権利があると共に義務もあるよ、という考え方です。
他者を尊重しながら、市民として社会に参加し、その役割を果たせる
ような指導するのが、デジタル・シティズンシップ教育です。

デジタル社会となっている昨今
使わざるを得ない時代になって
います。
従来の情報モラル教育は「危険
性」「規制をして制限する」な
どが強調され過ぎて、ともする
と使うことから遠ざける方向に
なりがちでした。学校、大人が
決めたことを守らせるようなイ
メージでもありました。



これからは、デジタルと共
に生活する機会がますます
増えるでしょう。
そのような中で、自分だけ
でなく他者にも関わることを
自覚し、当事者としてど
う使ったらいいかを考え、
責任を持った行動をするた
めの教育が世界的には広ま
って来ています。